# 柿生文化

柿生郷土史料館　情報・研究誌
住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1
柿生中学校内
電話：044-988-0004（柿生中学校）
http://www.kakio-kyodo.com
第56号

## 平成25年　癸巳（みずのと　み）

## 今年は「巳年（みどし）」一体どんな年なのでしょうか？

昨年の1月号（第44号）では昨年の干支（エト）の「壬辰（ミズノエ　タツ）」の意味について考えてみました。中国の思想によると「『陽』の性格を持った『水』との関わりが強く、万物が少しずつ動き始める年」となるのではないかと書かせてもらいましたが、はたして皆さんの昨年一年間はいかがでしたでしょうか。

今年は巳年（みどし：蛇どし）です。「ヘビ年」と聞きますと何となく生きたヘビを思い出し、何か薄気味悪いと思っている方も多いのではないかと思いますが、本当に蛇に関係あるのでしょうか。

まずは本当の呼び方からご紹介します。今年は「**癸巳**」の年です。読み方は「**みずのと　み**」となります。「**癸（キ：ミズノト）**」とは古代中国では、万物の中の「**水**」を表し（古代中国では、万物は「木」「火」「土」「金」「水」からできており、その5つの物質は陰と陽から成り立っていると考えられていました。）、そしてその性格は「**陰**」ということです。「陰」というのは**表面にあまり出ずに中にじっとこもり力を蓄える**ということなのでしょうか。同時に「癸」という文字は**草木の種子の内部に核となるものが次第に形づくられその大きさがしっかりと目にも見えるほどになってきた状態**を表していますので、発展の兆しが表れてくる状態を示しているものと思われます。

それでは「巳」はどうでしょうか。読み方は、日本の暦では「み」と読みます。十二支の考え方は中国の殷（イン：紀元前16～11世紀頃の中国の王朝→日本では縄文時代）の時代に出来上がりました。「巳」という文字は4月頃の気候の状態を示し、**草木がたくさん生い茂る極限に到達したありさま**を指しています。ですから十二支の子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥は単に各月の特徴を表す記号にすぎなかったのですが、中国の戦国時代（紀元前480～221年→日本では弥生時代前期）頃、一般の人々にもわかりやすいようにと十二支に動物の名前をあてたわけです。「子」が鼠（ネズミ）や「丑」が牛などと漢字とは関係のない動物の名前を当てはめたというのが本当の話のようです。

さて、今年は中国風に考えると「**いままで、目標に向かってじっくりと準備してきたことが、いよいよ芽を出し、草木がしっかりと生い茂るように成就する**」という年になるということでしょうか。ぜひともそんな一年にしたいものです。

（文：板倉）

シリーズ　「麻生の歴（史を探る」 第26話

# 小山田氏と大泉寺

小島　一也

鶴川駅から車で約10分、町田市下小山田町に大泉寺という古刹があります。今は曹洞宗の寺ですが、縁起は鎌倉時代に遡り、境内は数千坪、静寂な大樹の森に鐘楼門、持仏堂、観音堂、そして別当の秋葉神社などがあり、その環境は通常の森ではないことを窺わせています。

この寺を新編武蔵風土記稿は上・下小山田村の項で、古来小山田の関と歌に詠まれた関があったとしたうえで、「安貞元年起立なり、相伝ふ、当寺境内は小山田別当有重が居住の跡なり、依って有重のために開基せし所なりと云ふ、有重の法名を大仙寺天柱椙公と号す」と記しており、この寺の在るところは小山田有重の屋敷跡で、その菩提を弔うため一族が大泉寺を建立したということを述べています。

安貞(アンテイ)元年（1227）といえば鎌倉で頼朝源氏一族が絶え、北条執権が勢力を張っていた頃であり、小山田氏は北条氏に属していたのでしょう。平安～鎌倉時代、この地域は小山田の牧と小山田荘と称する荘園がありましたが、それの管理者として別当(実態は領主で、国司を支える地方官でした)が置かれました。この小山田荘は、現町田市全域から麻生区の岡上、黒川、片平、上・下麻生に及んでいました。

小山田有重には5人の息子が居り、二郎重義は家督を継ぎ、三郎重成が私どもとはなじみの深い生田枡形城主に、そしてその子小沢次郎重政が菅の小沢城主となり、この地方の戦国武士のヒーローとなっていきます。四郎重朝は現横浜市保土ヶ谷の榛谷(ハルヤ)の荘の別当となりますが、この兄弟は従弟である畠山重忠とともに、後に起こる鎌倉幕府内乱に巻き込まれることになります。

この大泉寺の裏山が小山田城の跡です。付近の地名には的場、馬場などがあり、さらに竹内、大久保、善次谷など今に残る近隣の地名は小山田氏に仕えた家臣の館があったとの伝承を裏付け、小山田城は前記小山田の関とともに、鎌倉時代のひと時の栄華を誇っていたものと考えられます。

有重等が死んで250年、文明9年（1477）この小山田城は、関東管領を争う長尾影春の乱によって落城、灰燼に帰してしまいます。小山田の荘は麻生一円に及んでおり、私どもの祖先の兵もここで戦ったかもしれません。

今、小山田城跡を訪れてみますと、小さいながら一の郭、二の郭、本丸の峰々が続き、そこには菩提を弔う石仏が約200体、兵どもの夢の跡を残しております(上図上)。そして山麓には有重をはじめ小山田三代の苔むした五輪塔が建っており(上図下)、その歴史を偲ばせています。

なお、小山田は鶴見川本流の地で、大泉寺より約1㎞の田中谷戸には「鶴見川源流の泉」(横浜市生麦より43.9㎞)があります(左図)ので訪れてみたらいかがでしょうか。

参考文献：「新編武蔵風土記稿」、「町田市史」、「町田の歴史をたどる」

「塚」を訪ねて（1）

# 五力田の「入定塚」と王禅寺の「狐塚」

川崎市麻生区およびその周辺地域には「○○塚」と呼ばれる「塚」が大変多く見られます。

江戸時代後期に編集された「新編武蔵風土記稿」を見ますと上・下麻生の近辺にあった鶴見川流域の主な村には右の表のような塚が見えています。

| 村　名 | 塚　名 |
|---|---|
| 伍力田村 | 入定塚 |
| 王禅寺村 | 経塚<br>牛塚<br>狐塚<br>塚 |
| 片平村 | 富士塚 |
| 上矢本村 | 亀塚<br>小塚<br>鷹塚<br>よろべい塚 |
| 大棚村 | 鵜目塚<br>大塚<br>小塚<br>そうげん塚 |
| 石川村 | 金塚<br>富士塚 |
| 市ヶ尾村 | 富士塚 |

一般的には「塚」の形状からつけた「大塚」「小塚」「亀塚」のようなものが多く見られます。

さて、伍力田の「入定塚(ﾆｭｳｼﾞｮｳﾂﾞｶ)」はというと、平尾村との境界付近にあり、周辺には「十三塚」という小さな小塚が多数並んでいます。以前、柿生文化に書きましたが、「十三塚」は、だいたい村境に多く外部からの災厄の侵入を防ぐための祈祷場であったと思われます。

「入定塚」は天文5年(1536年)「長信法印入定」と刻銘のある板碑が見つかっているところから、僧・修験者などが世の中の人々を救うために木の実や草の根を食べながら苦行を続け、死期が近付いたことを悟ると、あらかじめ築いておいた塚に入り、念仏を唱えながら死んでいった場所ではないかと考えられます。他の地域では、この入定塚からよく人骨・銅銭・法具などが発見されています。

一方「狐塚」という地名は全国的に広く分布しています。もともと日本では神を祀るために塚を築く風習が古くからありました。「狐塚」もその一つで、元は「田の神」の祭場であったようで、古くは塚を築いて田の神を祀っていてこの塚を「狐塚」と呼ぶようになりました。狐は稲の収穫期から冬にかけて人里に下りていて子狐を育てたことから、田の神・稲作の神の使いとして信仰するようになったと思われ、「稲荷(ｲﾅﾘ:“稲成り”の意味)の神様として日本全国にかけて信仰の対象になっていました。したがって、塚は狐の遺体を埋葬したのではなく神様を祀る対象として存在したと考える方が自然であると思います。

麻生区王禅寺東六丁目の「狐塚」（下図）は川崎市教育委員会の文化財調査収録によると古墳時代後期のものと記載されています。ただし「狐塚」という呼称は後の時代のものではないかと考えられます。それは、日本ではもともと信仰の対象として塚を造るということがよくありました。そんなことからすでにあった古墳を利用したというケースが多く見られます。「狐塚古墳」「富士塚古墳」等はそのいい例ではないでしょうか。

参考文献:「民間信仰事典」、「1968年川崎市文化財調査収禄」（文:板倉）

**募集します**

## 「初めての古文書 手習い」

☯実物の古文書を手に取りながら、古文書解読の基礎の基礎を楽しく学びます。

・実施日：平成25年2月9日～6月29日 午前10時～12時（全10回）
①2月9日(土) ②2月23日(土) ③3月10日(日) ④3月24日(日) ⑤4月13日(土)
⑥4月27日(土) ⑦5月12日(日) ⑧5月26日(日) ⑨6月15日(土) ⑩6月29日(土)
・講師：飛田三枝子氏（柿生郷土史料館支援委員会専門委員）
・費用：1000円（全10回分の資料代、 初日に徴収させていただきます）
・定員：30名（応募者多数の場合は抽選にいたします）
・申込方法：往復ハガキにて住所・氏名・電話番号をご記入ください。
・申込締切：平成25年1月20日(当日の消印有効)
・申込先：柿生郷土史料館　〒215-0021 川崎市麻生区上麻生6-40-1 柿生中学校内
・問合せ先：044-988-0004(柿生中学校)

## ∈∈∈柿生郷土史料館開館日のご案内∋∋∋∋∋∋∋∋∋

◎開館日：奇数月は日曜日、偶数月は土曜日

1月　6・13・20・27日(毎日曜日)　　2月　2・9・16・23日(毎土曜日)

◎開館時間：午前10時～午後3時

## ∈∈∈柿生郷土史料館1～2月の催物ご案内∋∋∋∋∋∋

**第1回 実物ミニ展示会**

### 「東海道中膝栗毛（とうかいどうちゅうひざくりげ）」十辺舎一九 著

弥次郎兵衛と喜多八の旅姿を実物資料で見て江戸時代を体感!!

公開日：平成25年1月及び2月の開館日

**第38回 カルチャーセミナー**

### 「横穴墓の線刻画を絵解きする」
～麻生区周辺～

・講師：村田文夫氏(日本考古学協会会員)
・日時：平成25年2月23日(土)午後1時30分～3時30分
・内容：柿生周辺から数多く発見された横穴墓に描かれた線刻画は果して何を物語るのか。講師の経験からそのナゾを解く。